

オオバに発生するシソサビダニ及びモザイク病の防除マニュアルの作成

農業研究部

1. 研究の背景

県内のオオバ産地において、2013年にモザイク病の発生が確認され、以降問題となっている。本病は、シソサビダニがシソモザイクウイルスを媒介して発生するもので、本虫の寄生によるさび症状も併発している。これらは、新種の病害虫であるため、防除体系が確立していない。

そこで、シソサビダニおよびモザイク病の発生実態を明らかにするとともに、シソサビダニの生態や増殖特性を基にした防除マニュアルを作成した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

モザイク病は6月下旬から10月下旬にかけて発生する（図1）。施設内での感染拡大を防止するには、施設への防虫ネットの展帳（0.6mm以下の目合い）によるシソサビダニ侵入阻止（高知県，2018）、発病株の早期発見・抜き取り処分の実施、モザイク病の発生源となる施設周りの野良生えのシソの除去が有効である。また、シソサビダニに有効な薬剤を適切な時期に散布することも重要である（表1）。2017年に表1のとおり薬散をしたほ場では、モザイク病は確認されなかった。

また、モザイク病、シソサビダニ及びシソモザイクウイルスの概要についてはインターネット公開の「オオバのシソサビダニおよびシソモザイク病防除マニュアル（全国共通版）」（中央農研，2018）を参照。

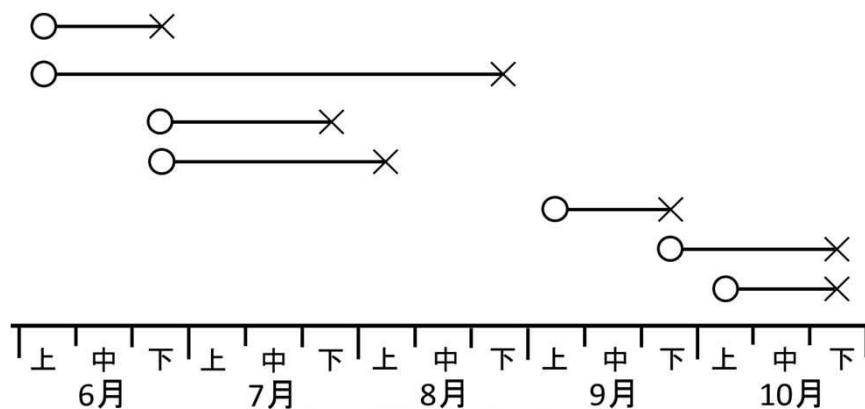


図1 2016年のほ場ごとのモザイク病初発時期
注) ○は定植時期、×は初発確認時期を示す。

表1 薬剤の散布時期及び商品名

散布時期	商品名	使用日数	使用回数	備考
定植5日後以内	サンマイトフロアブル	21日前まで	1回以内	
定植約10日後	マッチ乳剤	14日前まで	2回以内	
定植約17日後	アフーム乳剤	7日前まで	2回以内	
6～10月	アニキ乳剤	3日前まで	3回以内	1か月毎に散布
	コロマイト乳剤	前日まで	2回以内	

3. 期待される効果

オオバのシソサビダニ及びモザイク病の防除対策指導に活用することができる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫対策チーム

TEL：0974-28-2078

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8